

令和6年度 学校評価まとめ

＜得点＞ 次の１～２０の項目について、次の段階で評価した。 【そう思う：５点 ややそう思う：４点 あまりそう思わない：３点 そう思わない：２点】
 ＜評価＞ Ａ：４.０以上 達成している Ｂ：３.５～３.９ 概ね達成している Ｃ：３.０～３.４ あまり達成していない Ｄ：～２.９ 達成していない

＜Ⅰ 学校全体＞		属性	R 6 平均	R 6 評価	R 5 平均	R 5 評価	現状分析	改善策及び今後の取り組み	学校評価委員(学校評議員)からのコメント
1	生徒は本校に入学してよかったと思っている。	教1	4.2	A	4.2	A	○全体的に高評価。教員が思っているより保護者の評価が高いのはよい。 ○生徒の「そう思う」が増えればさらによいが、昨年よりもアップしている項目が多いので好ましい方向で捉えられている。	○普段の授業や行事など、日々の教育活動の中で、生徒の達成感・満足度を高め、生徒の満足度を高めることにより愛校心を醸成していく。そのためには、良いところは褒め、足りないところは努力を促す、ということを地道にやっていくしかない。さらに、学習以外で、活躍できる場も必要であると思われるので、その「しかけ」づくりを行う。	○全体的に学校全体への評価が向上しているようでよい。 ○SNSを通じて学校全体のイメージアップを図るのはどうでしょう。(インスタグラムとかTikTokとか利用)
		生1	4.1	A	4.0	A	○教師・生徒・保護者の認識にずれがある。生徒の満足度が低いのは、学区改変や複数志願などで龍野高校を消極的な理由で選択している者が多いためではないかと思われる。	○龍野高校をいい意味で積極的に選択してもらえるように、今いる生徒たちの満足度を上げていく。	○在校生が「入学してよかった」「誇り」を感じる有無については難しい問題であると思う。
		保1	4.5	A	4.5	A	○保護者は、龍野高校へ入学してよかったと思っていても生徒がその意識が低い。龍高プライドや満足度は、生徒自身の意識が低い。	○3年生卒業の時に、この学校に来てよかったと思う生徒を一人でも増やせるよう、教師も一丸となって指導する。	○高校生活を充実させる上で、目標を達成する経験、夢中に取り組む経験が重要であることから、学習以外でも生徒が積極的に取り組める場の設定を工夫してもらいたい。
2	生徒は「龍高生」であることに自信と誇りを持っている。	教2	4.0	A	3.9	B	○第二志望校で入学してきた生徒に、自信や誇りを持たせることは簡単ではなく、時間がかかる現実があると思われる。また、学習に不安をもつ生徒が入学した場合、自己肯定感がもてない状態があるように思う。	○2年生が低い値を示しているのは、中だるみ現象が現れていると思う。最終目標を設定し、それに向けて、小さな関門を作っていくながら意識を上げていきたい。	○高校生活を充実させるためには「やる気」を出させることが必要。そのためには改善策にもあるように「目標」をもつことが大切である、と考える。長期・中期・短期に分けて具体的に考えさせ、今すべきことをわかりやすく、地道に継続・努力していくことが必要である。 ○時間的にも難しい部分もあると思われるので、大谷選手のような「人生設計ノート」のような曼荼羅チャートをも自分で考え、家族や友人と共有し、互いに切磋琢磨していくことができないでしょうか。
		生2	3.8	B	3.8	B	○問2は、今の生徒には答えるのが難しい問いだと思う。		
		保2	4.2	A	4.1	A			
3	生徒は自分の目標や目的意識を持って学校生活を送っている。	教3	4.1	A	4.0	A	○進路目標など長期の目標を持つ生徒は多くいるが、そこから逆算して、中期、短期の目標を設定できている生徒は多くはない印象である。	○1年生より3年間を見通した各自の進路ストーリーを描かせていく指導が必要。目標達成のための道筋を考える機会を持ち、そこから中期、短期の目標を設定させて、少しずつ目標を達成することで成功体験を積み重ね、長期の目標に向かって不断の努力ができるようにしていく。	○今年の2年生の評価と、昨年1年生のときにした評価を比較した場合、多くの項目で評価が下がっている。来年2年生が3年生になったとき、どのように変化していくのか検証してほしい。
		生3	4.1	A	4.1	A	○進路に対する目標を早めに持たせたいが、かつて進路学習に充てていた「総合的な学習の時間」が現在「探究活動」の時間となり、進路学習、キャリア教育をする時間を捻出する工夫が必要となっている。		1年のとき、期待や夢が大きいが、2年生になると現実とのギャップ等が見えてきて下がるのかもしれない。3年生になれば目標が明確となり、それが行動につながる。評価が上がっていくのではないか。検証の結果がこの見立てと違うならば、教育内容や教育方針に問題があるかもしれない。見立てどおりであってほしい。
		保3	4.2	A	4.2	A			○キャリア教育、このニーズに即した進路学習の重要性は言うまでもない。もちろん、探究活動も大切なので、時間設定には配慮が必要である。
4	学校は家庭への連絡や情報提供を積極的に行っている。	教4	4.7	A	4.6	A	○教員が情報発信しているように思っても、保護者まで伝わっていないようである。家庭への連絡や情報提供を保護者側はもっと望んでいる。	○教員が伝えていると思っている情報が、生徒のところでは止まり、保護者の手元に渡っていない。生徒から家庭へ通信等を伝えるなど当たり前のところを指導していく必要がある。学校も努力はするが、家庭の方でも子どもとよく話をするをしてほしい。	○保護者への配布物の配布方法が連絡システムの変更により改善され、家庭と学校の連携が向上することを期待します。
		生4	4.2	A	4.2	A	○全体的に評価が高いが、教師の実感と保護者の実感に乖離がある。学校で配布するプリント類を生徒が渡さないという声もよく聞く。	○ライデンメールに変わる新しいツールで、学校が発信しているプリント類について配信することに対応したい。また、HPや学年通信を生徒や保護者の目に留まりやすいように工夫する。 ○詳細な情報を得るために、結果をもとに保護者への再アンケートやヒアリングを実施し、どのような点で連絡や情報が共有されていないのか知る必要がある。	○保護者の方々には、育友会活動にも理解を深めていただきたい。 ○せっかくの情報発信が伝わらないのは残念である。生徒や保護者の目に留まりやすい情報ツールの活用の模索をお願いします。
		保4	4.1	A	4.1	A			○保護者への手紙は渡すという当たり前の事ができないのは残念。メールや新しいツールを利用しているとのこと。保護者としつかり情報共有してほしい。
5	本校の教育環境(施設・設備面)は充実している。	教5	4.1	A	4.0	A	○オンライン配信、タブレット利用の場面が増えたが、教室のプロジェクターやWi-Fiなど、ネットワーク環境の悪さを実感させられる。教室でのタブレット使用が困難でストレスを感じる人が多い。	○ネット環境の改善すべき。	○充実した教育環境があつてこそ深い学びが可能になる。県への要望が実現することを願っています。
		生5	3.8	B	3.8	B	○事務室には本当によく対処して頂いたが、それでも夏期の教室のエアコンの不調がひどかった。夏のエアコンがまだ設置されていない教室がある。	○公立学校の限界がある。 ○教師や学校の努力だけではなんともならない。	○Wi-Fi環境やエアコン等整備してもらえるよう要望をし続けてもらいたい。
		保5	3.9	B	3.9	B	○全体的に数値は上がっていてよいと思うが、他校と比較すると、施設設備において劣っている点が多いと思うので、施設の面も充実を図るべきである。	○2年と3年の評価が低いので、生活するにつれて不自由感が高まっていると考えられるので、中学校までの教育環境と比べ、改善できる部分を検討する。	○施設設備に関しては限界がある中で、育友会の存在や同窓会があると思うが、時代の流れという理由だけで任意団体扱いする風潮を感じる。これは子どもたちにとって直接的にも間接的にも不利益になることがある。今一度、保護者や地域と密になり、全体で子どもたちを成長させていくという本質に戻って様々な事案に対応していただければ幸いです。
6	学校は目指している教育目標や指導方針をきちんと説明している。	教6	4.5	A	4.4	A	○学校の目指す教育目標や指導方針が教師が思うほど生徒や保護者には伝わっておらず、特に生徒の4割弱が伝わっていないと感じている。生徒のポイントが低いのは、「説明している」という質問について、教師と生徒の捉え方の違いに原因があるように感じる。	○HRの時間、学年通信、始業式・卒業式での話等でできるだけ教育目標等を伝えていく努力をする。 ○事細かなものは教師の側が心がけておけばよく、生徒に対しては折に触れて、龍野高校の進むべき道を平易で簡潔な言葉で繰り返し伝えるようにする。今後、保護者にも情報発信していかなければならない。 ○この設問を問う必要があるか、質問内容を見直す必要があるのではないかと ○問7～12に見られる学習についての不満が影響していると思われるため、学習への不満を解消することが必要。	○学校の教育目標などを生徒に説明する場がない状態で、評価を求めるのは難しいのではないかと。
		生6	3.7	B	3.7	B	○教育目標などを生徒に説明する場が在校生にはない。		
		保6	4.1	A	4.1	A			

＜Ⅱ 授業・進路指導＞		属性	R 6 平均	R 6 評価	R 5 平均	R 5 評価	現状分析	改善策及び今後の取り組み	学校評価委員(学校評議員)からのコメント
7	分かりやすい授業に努めている。	教7	4.8	A↑	4.6	A	＜わかりやすい授業＞ ○教員の評価は昨年より増加した。各教員はそれなりに工夫を行っている。しかし、生徒の評価が低いのは、生徒の学力差の大きく、教師が目標にしているものと、生徒のニーズに若干のズレがあるからではないか。	＜わかりやすい授業＞ ○生徒からの「授業に対する評価」をもとに授業改善を行い、生徒のニーズに合わせた指導が必要である。 ○教科書や使用教材のレベル変更も考える必要がある。	＜わかりやすい授業＞ ○生徒・保護者と教職員の満足度の差が大きい。概ね目標を達成されていると思われるが、もう少し差が縮むのが理想である。 ○各授業について、具体的な授業評価をしているのでしょうか。
		生7	3.9	B	4.0	A	○教師は指導しているつもりだが、教師の努力が伝わらず、生徒や保護者の実感に大きな隔たりがある。4分の1の生徒がわかりにくいと感じているのは残念である。	＜きめ細やかな指導＞ ○従来とは異なる学力層が増えてきているなかで、学校として進路先別のクラス編成(国公立／私大等)、習熟度別授業を増やすなどの検討する。 ○課題の内容を可能な限り早期に生徒に提示するようにするとともに、課題の量を教科間で調整したり、提出日をずらす工夫をする。 ○現在行っている学年もあるが、考査前に質問会や補習を行って、学習に不安を感じている生徒を支援する。	○先生方は各教科で研究授業を実施するなど指導力を向上させていく努力をされており、また習熟度別授業や少人数授業を積極的に進めるなど工夫を行い一人一人に対応されているのがわかる。
		保7	4.0	A	3.9	B	○受験を意識すると必然的に難易度は上がり、全員が分かる授業を目指す進度が気になる。日々生徒の様子を見ながら試行錯誤を繰り返しているのが現状である。	○課題の内容を可能な限り早期に生徒に提示するようにするとともに、課題の量を教科間で調整したり、提出日をずらす工夫をする。 ○現在行っている学年もあるが、考査前に質問会や補習を行って、学習に不安を感じている生徒を支援する。 ○補習や補講を行ったことが、結果につながっていない場合が多いのではない。定例の補習のみならず、時期に応じて必要な措置を講じていかなければならない。 ○力のある生徒が自走できる仕組みを考える。そのためには高いレベルを求める生徒に対しては、面談を行い、高い目標を意識させ、必要に応じて自主課題を与える等、個別に対応する。	○先生方は各教科で研究授業を実施するなど指導力を向上させていく努力をされており、また習熟度別授業や少人数授業を積極的に進めるなど工夫を行い一人一人に対応されているのがわかる。
8	学力向上のために補習や補講などきめ細やかな指導をしている。	教8	4.8	A↑	4.6	A			＜きめ細やかな指導＞ ○国立大学をめざすクラスと私大をめざすクラスを分けるのは良案だと思う。
		生8	3.9	B	3.9	B	＜きめ細やかな指導＞ ○4分の1の生徒が授業をわかりにくいと感じているにもかかわらず、学校が補習等の手立てを講じていないと感じている。 ○教師側は工夫しているが、学力差が広がった生徒の希望に十分には添えていない。	○現在行っている学年もあるが、考査前に質問会や補習を行って、学習に不安を感じている生徒を支援する。 ○補習や補講を行ったことが、結果につながっていない場合が多いのではない。定例の補習のみならず、時期に応じて必要な措置を講じていかなければならない。 ○力のある生徒が自走できる仕組みを考える。そのためには高いレベルを求める生徒に対しては、面談を行い、高い目標を意識させ、必要に応じて自主課題を与える等、個別に対応する。	○学力差がある中で、このような学校の取り組みは大切であると思う。
		保8	4.0	A	4.1	A			○学力差の拡大が現実ならば、習熟度別学習も適宜取り入れる必要があると考える。
9	学習面において生徒の理解度を考慮した指導を行っている。	教9	4.6	A	4.5	A	＜理解度に応じた授業＞ ○生徒・保護者で低い。学力幅が広がったことが原因と思われる。 ○約4分の1から3分の1の生徒が、理解できないままに授業が進められていると感じている。	＜理解度に応じた授業＞ ○学習内容が理解できないと感じている生徒が多いということがわかる。1年後を見据え、生徒のニーズに応じたレベルを設定していかなければならない。 ○学力差があると、授業進度を遅らせるにも限度があると思うので、習熟別学習を積極的に導入する。	○学力の二極化への対応は下位層だけでなく上位層の生徒への対応も必須である。それが一人一人を大切にすることにつながる。いろいろな課題が出てきて、先生方も限られた時間の中で大変ではあるが、教職員で協力し、解決への道筋を見つけてほしいと願う。柔軟な考え、取り組みを期待する。
		生9	3.8	B	3.8	B			
		保9	3.9	B	3.9	B			
10	学校の進路指導は充実している。	教10	4.7	A↑	4.3	A	○2割の生徒が、進路指導にも十分満足できていないとわかる。進路の目標をどこに置くかということが、教師と生徒との間でずれてきているのではないかと思う。	○適切な情報提供ときめ細かい面談を行うことにより、生徒のニーズに合った進路指導を行う。 ○保護者には学年通信やHPを通して情報発信を行う。 ○大学については関西にとどまらず、全国区で情報を提供するようにすると、3年になってからの進路指導がやりやすくなると思われる。	○学校評価に至るまでに、進路指導(内容やニーズ)について生徒へのアンケート等は取っているのか。
		生10	4.1	A	4.0	A	○本校に入学できたことひと安心、という生徒も多い。入学したら大学にも合格できると思っている生徒は、3年の進路指導がはいりにくい。	○定期考査の時に、累積の成績をグラフなどにしてPDSA式に振り返りをさせたらやる気になった生徒がいた。	○高校に入ったから安心、大学合格がゴールではないという意識づけは大切である。そういう意味でも「人生設計」という大きな視点が必要。進路指導は生徒からの信頼を得ることが大きいと思う。生徒の声に耳を傾け、保護者の思いや願いにも敬意を表しながら進めていると思うので、よく話し合うことが大切であると思う。
		保10	4.0	A	4.1	A	○探究活動等で時間がとられ進路学習等が行えていない現状があるのではない。教員の評価がアップしているのは、生徒の実態に応じた細やかな進路指導を行っているからである。		
11	学校の教育課程(カリキュラム)は生徒の進路実現や適性を十分に考えている。	教11	4.2	A↑	3.9	B	○全体から見ればわずかもかもしれないが、教育課程の見直しを行っている結果の表れである。ただ生徒がそこまで理解して評価を高めているのかは不明。	○生徒の学力層が変化し、共通テストの負担が増えているなかで、国公立への進学をメインにしたカリキュラムでは、生徒の適性に応じた進路実現ができなくなる恐れがあり、今後生徒の満足度が下がる可能性が大きい。生徒の状況を考えると、多様な進路に対応できるカリキュラムが望まれる。今後は「私立文系型」などの設定も視野に入れて、検討すべき。	○生徒の興味関心に対応でき、進路希望を実現する柔軟なカリキュラム編成を是非進めていってほしい。
		生11	4.2	A	4.1	A	○カリキュラムについては、現場の教師自身も検討を要すると感じる部分がある。		○高大連携事業も実施している。大学訪問、オープンキャンパスなど参加することで、目標が明確になり、刺激も受けると思うので今後も継続を。
		保11	4.0	A	4.0	A			
12	生徒の理解を深めるために、授業の改善を行っている。	教12	4.7	A↑	4.5	A	○教師の授業改善の意識は高いが、授業全般に対し、教師と生徒の思いのギャップが大きい。	○2年生の平均値が低い。教師が自覚したうえで工夫していくしかない。	○先生方の努力は目に見えての結果には繋がりにくいと思います。ただ、取り組んだことは力になっていると信じ、継続していただきたい。
		生12	4.0	A	3.9	B	○SSH主導で授業改善の取り組み、研究授業を実施しているため、教員側は授業改善に努めている意識がある。	○生徒が気づかなくても、生徒の状況を見極め、実態に応じた授業改善を継続する。	

＜Ⅲ 生活指導・特別活動＞		属性	R 6 平均	R 6 評価	R 5 平均	R 5 評価	現状分析	改善策及び今後の取り組み	学校評価委員(学校評議員)からのコメント
13	心身の健康を維持するための支援(生徒面接・カウンセリング)等をしている。	教13	4.7	A	4.7	A	○気になる生徒には早めに声を掛け面談を行うとともに、必要であればキャンパスカウンセリングなどを勧めるなど、外部資源の積極的活用を行い、早期対応を心がけている。 ○カウンセリングの受講希望者が多く、本来の回数では足りず、教育委員会に追加申請し回数を増加してもらっている。 ○カウンセリングの案内は年度当初に行い、毎月の保健だよりでも呼び掛けているが、保健だよりを読まない、保護者に渡していない生徒が多いように思う。	○かなりきめ細かくやっているが、まだまだカウンセリングを必要としている生徒がおり、充実しているとはいえない。カウンセラーだけに任せるのではなく、教師も保健室やカウンセラーと連携をとりながら今後も同様の取り組みをすることにより、必要とする生徒に支援を続けていく。	○「かなりきめ細かく…」の具体的な内容を提示してほしい。 ○カウンセリングの内容はどのようなものか。いじめの有無はどうか。 ○教師がきめ細やかに対応しているのはよくわかる。デリケートで難しい問題ではあるが、カウンセリングを希望する生徒への対応はまだ改善の余地があると感じる。是非回数を増やしてもらう努力をしてほしい。
		生13	4.0	A	3.9	B			
		保13	4.0	A	4.0	A			
14	本校は、個人情報保護し、人権に配慮した教育を行っている。	教14	4.7	A↑	4.5	A	○年間35時間のLHRのうち4Hを人権教育に充てているが、講演会があると、クラスLHRの回数が制限されてしまう。他の特別活動とバランスをとりながら実施しなければならない。 ○人権LHRを実施するとともに、日々の学校生活全般を通じて、自他の人権を尊重することの大切さを伝えている。人権に配慮しながら指導を行っている。 ○個人のプライバシーや人権には配慮しているつもりであるが、教師と生徒・保護者との差が大きい原因は何か気になる。	○人権教育は日々の積み重ねであり、常に意識をもって指導に当たらなければならないという教師の意識が必要である。 ○いじめの定義の変化から、実際に何か事がなくても「～ような気がする」ということから訴え、しかも、きちんと確認して対処することを伝え、なにもしないでほしいという生徒が増えた。これらの生徒に対してどうした対応をすべきなのかを考える必要がある。	○社会で関心が高まっている。ジェンダーレスの問題・相談等に対応できているのでしょうか。制服やトイレ等の問題にも取り組み、全校生徒が人権を大切にできるよう意識の向上に取り組んでほしい。 ○人権感覚は生後6ヶ月頃から育っていると言われている。「何もしないでほしい」と言いながら落ち込んでいく場合もあるので、手探り状態になりますね。
		生14	4.1	A	4.0	A			
		保14	4.2	A	4.1	A			
15	本校は防災や生徒の健康・安全に配慮している。	教15	4.6	A	4.5	A	○防災教育や避難訓練などを行っているが、生徒・保護者への認識に差がある。 ○教室の換気については適宜声かけを行っているが、9月、12月、1月に感染症に罹患する生徒が非常に多くなった。 ○生徒の健康面や安全面について、時期に合わせて、生徒に話したり、対策を行っている。	○防災よりも、生徒の健康・安全についての不満を感じている生徒の方が多いのではない。生徒に時間的・体力的に余裕がなくなっているとも考えられるため、行事のバランスや内容を考えていくことが必要であろう。 ○感染予防の徹底し、健康維持・増進に努める。 ○地域的にも防災意識を高める教育活動は不可欠で、今後も、折に触れて指導しなければならない。	
		生15	4.2	A↑	4.0	A			
		保15	4.1	A	4.1	A			
16	本校の学校行事は適切な内容で充実している。	教16	4.4	A↑	4.0	A	<学校行事> ○昨年度に比べて概ねよくなっていると評価できる。行事をすることで、生徒の良さを引き出す機会をつくることができる。 ○学校行事について3分の1の生徒が何らかの不満を感じているとわかる。全員が満足する行事の設定は難しいが、生徒の3分の1が充実していると感じていない原因を探り、見直しが必要である。 ○学校行事は、生徒個人の満足度に差があると思われる。生徒の満足度が低いのは、文化祭や体育祭など友人などが行っている他校と比較した結果が大きいと思われる。また、マラソン大会など、しんどいものを嫌っているのではない。	<学校行事> ○生徒が行事の多さを負担に感じている場合も考えられるため、配置のバランスや内容を検討したい。今後、学級減により職員数が減るので、行事の精選し、見直しが必要。 ○以前から比べるとかなり生徒の自由度は高くなっている。年々向上しているので、今後も継続して見直し・改善等を行い、よりよいものをめざす。 <生徒理解に基づいた指導> ○どのような問題点があるかを生徒に細かくヒアリングを行う事から始める。 ○少なくとも教師は一人一人の生徒を大切にしている意識で指導に当たっているが、生徒に伝わっていないようである。対話を大切にし、教師の思いが伝わるよう努力したい。	○学校行事が復活し、満足度が上昇しているのは良い反面、行事が増加し、学習との両立が懸念される。 ○コロナ禍以降、どこでも学校行事の見直し、削減が進んでいるが、生徒主体の意義ある行事、龍高らしさのある伝統的な行事については継続・充実することを願っている。 ○全般的に思うが、本質を見失わず、見直しをしてほしい。昨今、「こんな風にしなければならない」という流れだけで、特にコロナ禍以降は本心に議論したかどうかかわらず、その本質的なことを確かめず、大人にとって都合のいい方向に、行事や活動を進めていってと多々感じる。これから社会を担う子どもたちが不利にならないよう、見直し・改善等を行っていただければ幸いです。 ○先生方がお忙しい中、一人ひとりを大切に指導されていると思うが、生徒に伝わっていないようなので、手法を変えたり言葉かけや寄り添いを引き続きお願いしたい。
		生16	3.8	B↑	3.6	B			
		保16	4.2	A↑	4.0	A			
17	生徒一人ひとりを大切にした生徒指導を行っている。	教17	4.6	A	4.5	A	○行事をすることで教師の負担も増えている。 <生徒理解に基づいた指導> ○生徒指導部、学年が連携しながら、個々の生徒に応じた指導を心がけている。 ○約2割の生徒が生徒指導について何らかの不満を感じているとわかる。	○生徒会の中心である学年の評価が低いので、生徒会活動などをもっと前に出し、生徒の裁量権を拡大していく方向で活動を行う。 ○執行部以外の生徒が、自分たちも「生徒会」であることを意識させることが肝心である。そのために、生徒会中心の行事に対し、その企画や運営に携わるようにあうる。	○学校行事は生徒会中心に生徒の要望を聞き取り、提案していけるように進められないだろうか。生徒にとって魅力ある行事にできれば最高である。それにより、龍高への進学が進められれば、なおよい。
		生17	4.0	A	3.9	B			
		保17	4.0	A	4.0	A			
18	本校の生徒会活動は生徒が自主的主体的に運営している。	教18	4.3	A↑	4.1	A	○上昇しているので良い方向性で活動できていると思う。生徒会執行部を経験した者の満足度は高い。 ○生徒、教師ともに評価が上昇している。生徒会執行部の活躍している様子が、他の生徒たちにもよく見えている証拠である。	○生徒会の中心である学年の評価が低いので、生徒会活動などをもっと前に出し、生徒の裁量権を拡大していく方向で活動を行う。 ○執行部以外の生徒が、自分たちも「生徒会」であることを意識させることが肝心である。そのために、生徒会中心の行事に対し、その企画や運営に携わるようにあうる。	○学校行事は生徒会中心に生徒の要望を聞き取り、提案していけるように進められないだろうか。生徒にとって魅力ある行事にできれば最高である。それにより、龍高への進学が進められれば、なおよい。
		生18	4.1	A↑	3.9	B			
		保18	4.1	A	4.1	A			

19	本校の部活動は充実している。	教19	4.5	A	4.6	A	○全体的に高評価である。部活動は良い成果を上げている。ほとんどの生徒は部活動に充実を感じており、達成感が得ることができているとわかる。 ○部活動や課外活動などは教員、生徒、保護者とも意義のあるものだと感じている。 ○入学時より部活動を始め、何でもやってみようという声かけを行っている。 ○コロナ禍を脱し行事が従来に近づいたことで、生徒も保護者も充実感を感じているようだ。 ○教師にとっては部活動の数の多さは大きな負担ではあるが、精選しつつ継続していく。生徒の満足度は非常に高いことがわかる。ただし、勉強との両立が難しくなっている生徒も多くいるため、偏らない指導が大切である。 ○クラス減に伴って部活動の縮小も考えるべきであるが、今後とも文武両立を目指していく必要がある。 ○高大接続改革により、大学入試でも個人の活動歴が重視されることが多くなっている。入学時から、さまざまな活動への積極的な参加を促していく必要がある。 ○学校生活全体の充実度を上げる努力をしていきたい。楽な生活ではなく、3年生の後半になって充実感を感じてもらえるような指導をしたい。 ○価値観が多様化しているなか、単に楽しいだけでない部活動の良さを伝える努力をする。部活動加入率が下がりがつつある中、特に運動部での低下が目立つので、学校生活の充実のために工夫していきたい。※部活動自体が将来どうなるのか分かりませんが。	○部活動への満足度が高くなっている。上位大会への出場する部活動も増え、今後の活動に期待します。 ○生徒数が減少する中で、存続できる部活動の問題も今後出てくると思われる。 ○物価高騰により、保護者の部活動への費用負担が増加するのではないかと心配する。 ○先生方の勤務時間、生徒のニーズ、保護者のニーズなど難しいものがありますが、可能な範囲で生徒たちの人間としての幅を広げたり、繋がり等のため、尽力をお願いしたい。 ○中学校でも部活動の地域移行が進んでいる。高校の部活動の有り方も今後変わってくるものと予想するが、教育的意義の高さを考えると、先生方の負担も大きいとは思うが、充実した部活動の維持継続を希望する。 ○多くの生徒が活躍しているので嬉しく思う。文武両立は生徒の成長に大切なことである。
		生19	4.5	A↑	4.3	A		
		保19	4.2	A	4.1	A		
20	生徒は様々な活動を通して、達成感を得たり仲間意識などを高めたりしている。	教20	4.5	A	4.4	A		
		生20	4.3	A↑	4.1	A		
		保20	4.3	A	4.2	A		

(12)	学校は、保護者や地域の期待に応えている。	保12	4.0	A	4.0	A	○概ね良い評価を得ている。	○保護者や地域の期待とは何か、保護者の思いを調査することが必要なのではないか。学校は学校のゆるぎない方針をもって指導に当たらなければならない。	○地域や保護者への積極的な情報発信をお願いしたい。 ○いろいろな取り組みがあり、良いと思う。地域から信頼され、親しまれる学校に。
------	----------------------	-----	-----	---	-----	---	---------------	---	---

※網掛けは昨年の平均得点より0.2ポイント以上の差がある項目

学校評議員からのご意見(全般的に)

- 龍野高校が志望校として選択されない理由の1つとして、交通の利便性の悪さが考えられる。実際、姫路方面の保護者によると、龍野高校の伝統や校風、進学実績については評価が高いが、毎日の通学を考えると、選択しにくい状況にあるという。本竜野着7:50頃、本線竜野7:47の電車で通学すると校門遅刻になるという。よって実際はもう1本早い電車で通学しているとのこと。通学範囲も広くなり、絶対的な時間もかかるので、せめて校門遅刻をなくす等検討してほしい。
- 「不易流行」龍野高校には素晴らしい伝統がある。故にいままで培ってきたものを大切にしつつ、今の生徒に合った対応が求められているのではないか。学校評価において現状分析されているように、先生方は「良い」「できている」と思っていることが、生徒側からは「悪い」「できていない」と感じている。ならば現状維持ではなく、原因について考え、何かしら変えていく必要があるのではないか。教員が現状を生徒や保護者のみの責任にして考えることも努力することもなければ、学校が変わることはない。志願者数の確保、魅力ある学校づくりを目指す必要がある今こそ、真剣に考え、策を練るべきときではないか。龍野高校の未来のためにも、現状をしっかり受け止め、分析・改善・対策をお願いしたい。
- 生徒と先生方との捉え方の開きに目を向け、一方的な指導ではなく、生徒が自ら考え、行動できる力がつくよう、生徒の内面理解に努め、支援していける体制づくりが必要。